

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673900082
法人名	医療法人 クオラ
事業所名	グループホーム アリエ
訪問調査日	平成20年9月5日
評価確定日	平成20年10月6日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673900082
法人名	医療法人 クオラ
事業所名	グループホーム アリエ
所在地	薩摩郡さつま町船木2311-8 (電 話) 0996-52-1262
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(20年8月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.5人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	8,400 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	680 円	

(4)利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低 69 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	クオラリハビリテーション病院 かわごえ歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山間の自然豊かな環境に建てられており、一帯は同法人グループの病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、訪問・通所サービス事業所などが整備された地域医療・介護の中心拠点である。隣接して関連の保育園や職員宿舎等があり、周辺は子供たちの元気な声や行き交う人々にぎやかである。法人内のネットワークが充実しており、情報共有や緊急時の連携体制も整っている。教育研修が徹底されており、職員は常に向上心を持って取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 【介護計画の見直し】入居者の状態に合わせて定期的にモニタリングを行い、必要に応じて随時計画の見直しを行っている。見直しについては、職員や関係者と話し合いながら情報共有を行っている。【地域の人達との交流の促進】運営推進会議において、地域住民との交流を図るための話し合いがなされ、地域行事への参加が計画されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、項目の持つ意味について掲示しており、職員はそれぞれに確認して取り組んでいる。外部評価結果については全体会で報告し、内容確認と改善に向けた話し合いがなされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2~3ヶ月に1回開催されている。ホームの活動状況や外部評価・自己評価について報告され、地域活動等についても活発な話し合いがなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談・苦情等については窓口を設け、担当者が対応している。いただいた意見については、全体会にて検討され、ご家族へも報告がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人の施設に囲まれた立地であるため、ホーム側から積極的に地域行事や活動に参加するよう努めている。地元の公民館長を通じて、敬老会や婦人会行事への参加を働きかけている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームにとって何が大切か、求められているものは何かを考えて独自の理念を掲げている。	○	地域密着型サービスとしての役割が、理念や方針等を通して読み取れるように検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時の唱和や、名札の裏に理念が記入されていることで、いつでも意識して行動することができる。また、月1回のユニット全体会において、理念の意義を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の施設に囲まれた立地であるため、ホーム側から積極的に地域行事や活動に参加するよう努めている。地元の公民館長を通じて、敬老会や婦人会行事への参加を働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、項目の持つ意味について揭示しており、職員はそれぞれに確認して取り組んでいる。外部評価結果については全体会で報告し、内容確認と改善に向けた話し合いがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2～3ヶ月に1回開催されている。ホームの活動状況や外部評価・自己評価について報告され、地域活動等についても活発な話し合いがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者へ、事あるごとに相談や報告を行っている。担当者とも顔見知りとなり、現在はメールでのやり取りも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回「アリエだより」を発行して、日々の暮らしぶりや行事、職員の異動等を報告している。また、ご家族の面会時にはその都度、現状の報告を行っている。金銭管理については、出納帳や領収書を保管して管理されているが、ご家族への報告・確認の証跡が残されていない。	○	金銭管理状況の報告について、来訪されたご家族の場合は、出納帳に確認印またはサインをいただき、遠方のご家族の場合は出納帳(写し)の発送記録を残すなど、報告・確認の証跡を残すように工夫していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等については窓口を設け、担当者が対応している。いただいた意見については、全体会にて検討され、ご家族へも報告がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等による影響を考え、引継ぎ期間を1ヶ月設けている。また、日頃より行事をユニット間で共に行うことで、互いのユニットの入居者と職員との交流を通して、顔なじみの関係づくりがなされている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階を初級・中級・上級に位置づけ、それぞれの立場や経験、習熟度に応じて計画的に研修機会を設けている。研修受講後は報告書を作成し、全体会にて他の職員へ報告がなされている。		段階に応じて研修受講の機会を設けているが、職員がいつでも確認でき、さらに向上心を持って臨むためにも、研修計画書の作成に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のホームと職員相互訪問を実施し、互いに気づきや学び、相談等ができる機会を設けている。また、出水川薩地区のグループホーム連絡協議会に加入し、他ホーム職員との交流を通して情報交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までの状況に応じて、頻回に見学していただいたり、入院中の方のところへは何度も面会に出向き、顔なじみの関係づくりを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	古くからの慣習や昔とは変わってしまった地域の話、また料理の味付けや食材の切り方などを、入居者との会話の中で教えていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりでの気づきについては、経過記録に記載して職員間で情報共有している。入居者と接する場面においては、常に一人ひとりの表情や行動から、その思いを感じ取るように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメント表により、入居者の全身状態や意向等を把握している。全体会やケアプラン検討時に、計画についての意見交換を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に、定期的なモニタリングと計画の見直しを行っている。担当者会議にはご家族の参加を促して意見を伺うようにしており、参加できない場合は計画書に会議録を添えて後日提示している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	嚥下体操やパワーリハビリテーションを導入して、積極的な健康づくりに取り組んでいる。また、計算ドリルや歌を取り入れて、頭の体操を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、かかりつけ医をホームの協力病院へ変更していただいている。その際の説明は十分に行い、本人およびご家族に了承していただいた上で変更している。拒否のある場合は、それまでのかかりつけ医に継続して診ていただくようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を作成しており、入居開始時に本人およびご家族に説明すると同時に、意向についての確認がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年2回、プライバシーに関する研修を実施している。日常的には、それぞれの場面で入居者の誇りを傷つけてはいないか、個々のプライバシーは守られているかなどを考えて行動するように指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間は、入居者の生活スタイルに合わせて対応している。行事についても、参加を拒まれる方には無理強いせず、ユニット間で協力しながら希望を尊重して対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力や好き嫌いによって、食事の準備や後片付け、調理等を手伝ってもらっている。メニューについては、その日冷蔵庫にあるものを入居者に見てもらい、何をつくるか一緒に考えるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回、午前中を基本に入浴していただいている。その時間帯以外にも、希望があれば対応できるように準備している。入居者の状態に応じて、個浴や機械浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居以前の趣味や生活の中での楽しみごとが続けられるように、場面づくりや必要なものを準備するなどして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行われ、ごみ出しや買い物に出かけたりしている。また、墓参りなどの希望があれば、ご家族と話し合いながら協力を依頼するケースもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。玄関横に職員室があり出入りを確認できると共に、ホーム周囲は法人の関連施設に囲まれているため、外出時は施設の職員からの連絡もある。また、一人で外出されそうな様子が見られた場合は、さりげなく声をかけて一緒に散歩を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っており、抜き打ちで緊急連絡網を使つての訓練を行うこともある。隣接して法人の職員住宅があり、避難訓練にも参加して協力体制を整えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、法人の管理栄養士が立てたものを参考に食材のバランスや量を決めている。水分摂取については1日1000mlを目安としており、状態に応じて摂取量のチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は風鈴やすだれ、干し柿などで季節感を醸し出している。日中はホールで過ごすことが多く、入居者同士で会話を楽しむ方、ソファで休んだり好きなテレビを見たりする方など、それぞれに自由に過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのものを持ち込んでもらうようにご家族へ説明がなされ、入居者にとって居心地よく暮らせるように、家具や装飾品に工夫がなされている。		